



研究キーワード

非ネイティブの意識, CEFR

徳山 瑞文

教授

TOKUYAMA, Mizufumi

所属…人間形成教育センター

tokuyama@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ 主な担当科目 Intensive English 1,2,3,4,6,8)

■ 研究者略歴

1987 (昭和62) 年 7月 中国東北師範大学外国語学部英語学科卒業

1987 (昭和62) 年 7月 中国吉林省教育学院 英語教師

1999 (平成11) 年 4月 鳥取県立青谷高等学校にて日本文部省JETプログラムの外国語助手 (ALT)

2003 (平成15) 年 3月 鳥取大学大学院教育学部教育学研究科教科英語教育修了

2003 (平成15) 年 4月 鳥取環境大学 英語非常勤講師

2017 (平成29) 年 4月 鳥取環境大学 英語特任講師

2019 (平成31) 年 4月 公立鳥取環境大学 人間形成教育センター 教授

Research

■ 取得学位 教科教育修士 (鳥取大学)

■ 専門分野 英語教育

■ 現在の研究テーマ ・日本人の英語勉強法に関する研究
・英語能力の尺度「CEFR」に関する研究

■ 受賞歴 1998年9月 中国吉林省教育学院 青年優秀教師賞

■ 所属学会 日本全国英語教育学会, 中国地区英語教育学会

■ 資格 中国大学教師資格

Data

■ 研究等活動

【報告書】

・「Is It Necessary to Use "All English" for the Classes of ESL?」2015年, 中国地区英語教育学会

【論文】

・「English Education of the New Century in Japan -- Examination of ALT's Functions through the Analyses of Junior High School New Textbooks and the New Strategies of English Education」, 2003年, 「鳥取大学英語研究」第4号

■ 社会貢献活動

・2013年1月から2017年3月の間, 鳥取NHK文化センターにて英会話教室教師

人間形成教育センター

英語教学法 英語学習法



人間形成教育センター
教授

徳山 瑞文

TOKUYAMA, Mizufumi

SDGs 関連項目



● 研究内容

英語に対する日本人のコンプレックスをテーマに研究している。2021年から大学共通テストの始まりをきっかけに、文法、訳読が中心だった英語教育の時代は終わった。この変化によって、中学・高校の英語授業に「聞く・話す・読む・書く」の英語4技能を活用した、使える英語を意識させる必要性が高まった。又、大勢の社会人が「英会話教室」に通って長年勉強しても、英語を話せる人が少ない現状に変わりはない。教育方法や教員養成のあり方など、いろいろ問題点はあるが一番大きな問題は日本人の英語に対するコンプレックスが存在していることである。そこでコンプレックスの要因となっている非ネイティブの意識、発音の窮境と究極、「聞く」「話す」より先に「読む」「書く」を学ぶといった順番の間違った勉強法などを見直した英語教学法、学習法に取り組んでいる。

- (1) 非ネイティブの意識: 100%完璧にネイティブスピーカーのように流暢な英語を求めている。完璧な英語を目指すよりも、多少の訛りが許される環境で劣等感を感じないように、自然に自信を持てるように練習して行くことが大切である。
- (2) 発音の窮境と究極: 日本語には外来語が多くて、英語の単語を発音するときに影響を受けていることは無視できない環境にあるが、中学生の英語授業では「発音記号」を本格的に指導することが重要である。
- (3) 順番「間違った」勉強法: 記憶の定着度アップするアウトプット練習方法をすることなく、日本語と英単語の意味を直訳して理解するような固定観念の勉強方法を採用している。外国語の標準勉強法としての原則は四つの能力を同時に練習することである。

● 想定パートナー

県、市、町の教育委員会など

● 応用分野

教員の英語教授法、英会話の向上に取組む企業など

● 取組実績

【論文】

1. English Education of the New Century in Japan--Examination of ALT's Functions Through the Analyses of Junior High School New Textbooks and the New Strategies of English Education (Tottori University English Education Journal 2003)
2. Is It Necessary to Use "All English" for the Classes of ESL? (Oral Presented at No. 46 Research Presentation Program of the Chugoku Academic Society of English Language Education 2015)